

## 安養寺（あんようじ） 楠町7丁目



安養寺は尼崎藩主青山家の菩提寺である。大倉山の麓のこの寺のある場所は旧坂本村にあたり、坂本村は幕末まで尼崎藩領であった。この寺は初め、尼崎の大物（だいもつ）にあり、10世紀の天暦年間に源信の妹、安養尼が開いたと伝えられている。江戸時代に入り、尼崎藩主青山幸利（よしとし）が1684（貞享1）年に69歳で逝去した

時、遺言で遺体を藩領の坂本村に葬るよう言い残した。そこで、遺体を村の山中に葬り、安養寺をこの地に移して、大悲山と号し、青山家の菩提寺としたのである。1692（元禄5）年の坂本村庄屋の届書に「摂州八部郡坂本村浄土宗尼ヶ崎如来院末寺大悲山成覚院安養寺」という文字があるが、1892（明治25）年には同じ浄土宗でも知恩院の末寺となった。なお、藩主青山幸利は領内に善政を敷き、領民からは敬愛された殿様であったという。境内には青山家の墓所があり、墓所の向かって右の墓石が青山幸利（成覚院）、左が嫡孫の青山幸督（よしまさ）（泰源院殿）のものである。1915（大正4）年、山中より境内へ改装された時、副葬品が多数出土している。そして、その墓地の前には平沼騏一郎書の幸利をたたえる「青山幸利侯景仰碑」が建てられている。

1995（平成7）年1月17日の阪神・淡路大震災にあい、全てが崩壊したが2015（平成27）年3月に落慶を迎え、現在の建物となった。

場所：神戸市中央区楠町7丁目1-10



青山家墓所



青山幸利侯景仰碑

出典：「神戸歴史トリップ」道谷 卓 著